

[研究課題名]

胃十二指腸潰瘍の原因と特徴の10年間の推移の検討

[研究機関]

大阪回生病院 消化器センター

[研究責任者]

増田 大介 大阪回生病院 消化器内科部長

[研究の目的]

近年、*H.pylori* の除菌が進み、薬剤性潰瘍の認知度上昇とともに PPI の予防投薬も行われるようになりましたが、消化性潰瘍は少なからず存在します。そのような中で *H.pylori* 除菌がなされずに残っている消化性潰瘍の割合や PPI の予防投薬を行っているにも関わらず生じる NSAIDs 内服患者の潰瘍の存在、NSAIDs 以外の薬剤性潰瘍の増加の有無を網羅的に時代の変遷とともに調査し、全体像を把握すること。

[研究の方法]

2011年1月から2020年5月31日までに上部消化管内視鏡検査を実施し、癒痕例を除く胃潰瘍もしくは十二指腸潰瘍の病名が付けられた観察研究。過去の診療記録、検査所見を参考にデータ収集するため、保険適応外の医療行為や未承認薬等の使用は無い。対象期間内の診療記録を観察年毎に群間比較を行う。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

〒532-0003 大阪市淀川区宮原 1-6-10
大阪回生病院 消化器内科 増田 大介
電話 06-6393-6234